

平成31年1月28日 初不動の法話

日本の社会保険を守りましょう

きょうのネット新聞を見てると、「自民党から共産党まで政策が一致しているのは、＜国民皆保険を守る＞ということです」という記事を読んだんです。

医療費は病気によって違うけど、高いように思いますよね。

私が2015年、いまから4年前、腰の骨が溶ける化膿性脊椎炎でかかった医療費は、総額で200万円ほど、っていうても支払ったのはその三割やから60万円、その後、高額医療で20万円ほど返ってきたので、40万円くらいということになります。

たしかに医療費は高いけど、保険のおかげでずいぶん助けられることを実感しました。

そのネットの新聞を見て、一昨年、国際ジャーナリスト堤未果さんの講演を聴いたのを思い出しました。

アメリカの医療の現状の話です。

こんな実例があったそうです。

マムシに噛まれた若者が救急で運ばれた病院で治療を受けたとき、請求された医療費が約1700万円ほどかかったというんです。びっくりポンです。

日本は社会保険やね。けど個人保険のアメリカでは治療費を保険会社が決めて、提携された医療機関でしか保険がきかないんです。だから救急車で運ばれて提携外病院にかかると全額自己負担になるということで、1700万円請求されたんですね。

若者は「家を売らなければ払えない。ヘビの毒で死んだ方がよかった」と漏らしたそうです。

アメリカではこれが日常茶飯事だというんです。もちろん病気にさえならなかったらアメリカで生活するのもええかもしれませんけどね。

アメリカへ行って病気になったらアカンよ・・・（笑）

アメリカでは「医療はビジネス」なんやって。

これを変えようとしたのが「オバマケア」と呼ばれるものやけど、これがうまくいかなかったのは薬の価格と保険料が急上昇したためで、しかもトランプ（大統領）になって

から、オバマのすべてを否定するようにしてるからアメリカも大変やなあ。

アメリカの保険会社はもうけるため、そして投資者に配当することが命題だから、すべてお金儲けのためということや。

日本のように「患者の立場に立って」ということはまったく考えられていないということや。

日本では保険証を提示すれば全国どの医療機関でも同程度の医療が受けられるっていうことは、ありがたいことやなあ。

これは医療に市場原理が導入されていないからこそ実現している制度なんやって。

ところが、この制度を潰して日本に自由民間保険を送り込もうとしているのがアメリカです。アフラック アクサダイレクト などのアメリカの保険会社がそうやね。

日本も混合診療や自由診療というて、少しずつアメリカの保険会社も入りやすいように仕掛けてるなあ。

けど日本で広がらない邪魔なものが5つあるっていうんですね。

それは、さっき言うた①国民皆保険が与野党一致した政策やいうこと、それから②患者の声がジャマになってるっていうこと、それに、③小さな連携、小さな患者会が潰しにくいということなど、やそうですよ。

このなかでも「患者の声」、いわゆる当事者の声が広がって、国民感情や想像力がかき立てられることがもっとも邪魔になるっていうんですね。

先ほどから難病患者の医療に関する署名をしてもらいましたが、そういう活動や患者会それぞれが声を上げることをアメリカの保険会社が一番嫌っているということやそうです。

社会保険があるってことはありがたいことやなあ。

しっかりみんなで国民皆保険を守っていきましょう。

今日は仏様と関係ない話しでした。ほかの話しも用意してたんやけど、もう時間になってもた。今日の法話はこれでおしまい。これから護摩焚き法要です。